

ひろしま県

高次脳機能センターだより

第10号

令和3年9月1日 発行



「妖精さん」
外来患者様の作品（樹脂粘土）です。

CONTENTS

特集

社会的行動障害について②

利用者のページ

高次脳機能障害と共に④

コラム等

コラム等⑤

関係機関ニュース

お知らせ⑥

広島障害者職業センター⑦

案内

診療案内

いぬくらひ

広島県高次脳機能センター

センター長 近藤 啓太

日頃より高次脳機能障害者の支援にご協力いただきありがとうございます。今年度も年1回の広島県高次脳機能センターの機関紙を発刊することができました。今年度も新型コロナウイルス感染症対策という過去に経験したことのないような事態へ全国的に対応を迫られている特殊な年であることは間違いありません。当院も日々感染対策に留意しながらこれまでと変わらない支援が継続できるよう模索をしているところです。

さて、今年度の機関紙のメインテーマは「社会的行動障害」とさせていただきます。高次脳機能障害者の支援を考えたときに社会参加や日常生活内での困りごとの筆頭にも挙がる障害像であり、支援者やご家族も日々戦っている障害だと思っています。当事者も自分の感情を制御できずに苦しんでいます。近年、「社会的行動障害への対応と支援」というマニュアルも国立障害者リハビリテーションセンターより公表され、全国的に社会的行動障害への支援の深まりが期待される所です。

この度の機関紙の内容が、高次脳機能障害の支援に日頃より尽力されている皆様に少しでもお役に立つ内容であれば幸いです。

特集

社会的行動障害について

今回は高次脳機能障害の症状の一つ、「社会的行動障害」について取り上げたいと思います。

高次脳機能障害では、認知機能の低下のみでなく、行動や感情の障害が多くみられることがあります。このような障害は**社会的行動障害**と呼ばれます。この社会的行動障害は、入院生活などでは見落とされることが多く、日常生活や社会生活などの実生活場面を通して問題が表面化するケースが多いという特徴があります。原因は様々ですが、

①脳機能の損傷に伴い社会的行動が直接障害されている場合、
②注意障害や記憶障害などのために、状況をつまく判断できず結果的に不適切な言動となる場合、
③失敗経験を積むことで自信を喪失し、心理的な負担が増

えた結果、怒りや抑うつ的な症状が出現する場合などがあります。症状としては、依存性や退行、欲求や感情コントロール低下、対人技能拙劣、抑うつなど多彩な症状が含まれます。

この度、厚生労働科学研究より社会的行動障害に対する対応マニュアルが作成されました。この対応マニュアルをもとに、具体的な対応方法について説明していきたいと思います。

社会的行動障害に対する対応の基本としては、実際に社会的行動障害が生じた前後の文脈を調べ、**①**困った行動のきっかけを知る。**②**認知機能を確認する。

③環境を調整する（きっかけを避けるようにする）・対応方法を身に付ける。**④**今後の見通しを立

てて、一緒に生活を考える。という流れになります。



1

困った行動の きっかけを知る

まずは本人からよく話を聞き、行動を観察し、きっかけとなるできごとを探っていくようにします。

①きっかけとなるできごと（トラブルの前の様子や直接の原因）、②困った行動（どのようなトラブルが起こったか）、③結果（誰がどのように対応して、どのような反応があったか）、この3つの状況を記録し、トラブルの原因を検討してみよう。

2

認知機能を 確認する

記憶、注意、遂行機能など本人の認知機能の状態を確認、把握して①の「困った行動のきっかけを知る」で探った「きっかけ」との関係を考えてみましょう。

例えば、「忘れやすい」という認識があったとしても、その内容や程度を具体化した上で代償方法などを獲得すること、忘れてしまうことによる混乱や不安に伴う困った行動を減少させていくことができます。

3

環境を調整する 対応方法を身に付ける

（きっかけを避けるようにする）

社会的行動障害の多くは、言葉で注意してもおさまらないことが多いため、場所や話題を変えるなどが有効です。

原因となる状況を観察し、きっかけとなる相手や話題、環境などを探り、それを回避するようにしましょう。

お困りのことや気になることがありましたら、高次脳機能センターまたはリハビリ担当までご相談ください。

4

今後の見通しを立てて 一緒に生活を考える

先の見通しが立たないことへの不安や混乱を、行動で周囲に示していることがあります。中には制度の活用により経済状況が安定したり、一緒に障害福祉サービスを探して生活が安定したりすることでご本人の不安感やイライラ感が軽減するケースもあります。

また、より詳しい情報については、厚生労働科学研究より発行されている『社会的行動障害への対応と支援』をご参照ください。

「高次脳機能障害と共に」

須山 高志（父・博美）

はじめまして、島根県在住の須山です。

当事者、高志が交通事故により受傷して約9年が経過し少しずつですが良くなってきたことに喜びを感じると共にリハビリの大切さを痛感した気持ちを皆様にお伝えする事ができればと思い書かせて頂くこととしました。

事故後、広島大学病院に緊急搬送され手術を受け一命をとりとめる事が出来ました。

命の重みを感じた事は今でも忘れません、その時の診断名は「高次脳機能障害」でした。

今までに聞いたことのない病名でしたし、その時に医師から「命を助けたことを恨まれる日がくるかも知れません。」この一言は今でも忘れることはできませんし、その言葉の意味も重みも知るよしもありませんでした。

高次脳機能障害について正しい知識を得ることができたきっかけとなったのは、「サポートネットひろしま」さんが発行の小冊子「高次脳機能障害とその家族の軌跡」でした。

多くの当事者、家族の方が悩んでいることを知ると共に知識を得ることが出来ました。

高次脳機能障害に対して真摯に向き合っていていかなければ何も前へ進まないと思い、講習会、研修会に参加し、勉強させてもらった事が後々大変役立つこ

となりました。

勿論、当事者も参加させ自らも知識を得ると共に、少しずつですが理解できるようになりました。

そんな一番大切な時期に県リハ高次脳科に入院させて頂き、リハビリ治療を受診できたことは、何よりもの喜びでした。今の元気な姿をお見せできることは、近藤先生をはじめスタッフ皆様一同のお陰である事は言ってもありません。

高次脳機能障害に対する専門知識の豊富さはもちろん、当事者、家族に対する心理面のケアにおいても心掛けて頂けたことは感謝しかありません。現在も経過観察して頂いており、入院当時から引き続き見守り続けて、相談させて頂けることは何よりも心強い支援だと感じております。当事者本人にとりましては、家族以上の信頼ができる素晴らしいスタッフの皆様であることは言ってもありません。

失敗しても「あきらめない」、その繰り返しが大切だと考えています。

障害者になったことよりも、今後どのように生活していくことが当事者にとっては大事なことだと思いい、一生、一緒に生活していくためには、共に仲良く、障害という言葉に対する偏見を捨て前向きに進んでもらいたいものです。そういった意味でも家族として何が出来るのか、何をしなければいけないの

か、考えていきたいものだと思います。

今後の目標として「親亡き後の一人暮らし」を合言葉として就労を含めた自立生活を目指していきます。勿論私たちだけでは無理な事は承知しております。

今後も県リハの皆様方をはじめ関係各位の皆様方に指導していただければ何よりも心強いことだと思つと共に家族の絆の大切さ、そして何よりも当事者本人の強い意志が大事だと思います。今後もし引き続き見守りの程をよろしくお願い致します。



初詣

コラム

高次脳機能障害の方の運転再開について

当センターでリハビリを受けておられる方には、外傷や脳卒中、脳炎などにより高次脳機能障害が残存し、突然自動車運転の中断を余儀なくされた方が沢山いらっしゃいます。

そして、自動車が生活に不可欠な地域にお住まいの場合などで、多くの方が運転再開を希望しリハビリを継続しておられます。

運転はスピード感を持つて同時に様々な情報処理する必要があります。道順や道路状況を把握して、自転車や歩行者、対向車の動きから危険を予測し対応をすること、車間距離を適切にとり、アクセルとブレーキの強弱やタイミング、安全な運転操作を行うなど高度な脳の働きが必要となります。

当センターでは覚醒度、記憶力、注意力（選択性、分配性、持続性、情報処理速度）、問題解決能力、視覚認知などの認知機能を、まずは検査を通して評価し、慎重な判断

を行っています。評価によってすぐの再開が叶わない場合でもリハビリによる注意機能などの改善により運転再開の可能性は高まるため、リハビリを継続し一定期間をあけて再度評価を行う場合もあります。

高次脳機能が評価上、運転再開を検討するレベルに達した場合、最終的には自動車学校で実際に自動車に乗り、場内・路上を運転してもらいます。その際教官とリハビリスタッフが同乗し評価を行います。自動車学校では疲労（耐久性）や衝動性などの評価は難しく、運転再開が可能となった後も、外來で聞き取りを継続しながらフォローアップを行っています。

目に見えない障害である高次脳機能障害は、御本人は十分に自覚されていない場合も多く、御本人も周囲の方も運転再開の判断に迷う場合が多くあると思います。生活に不可欠でもある自動車ですが、

なんとなく運転を再開する事は大変危険である場合があります。

交通事故のリスクを最小限にし、

安全な運転を再開させるための支援を当センターでは継続して行っています。

新型コロナウイルス感染症の対応について

1 外来診療

病院に入る前に手指をアルコール消毒してください。

来院の際はご自身でマスクを用意し、マスク着用の上、来院ください。

受診前の体調確認をお願いしております。

発熱・せき・倦怠感など体調に異常がある場合は、来院される前に次の電話番号までご連絡ください。

(082-425-1455) (内線：237)

付き添いは可能な限り少人数（1～2名）でお願いします。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、診察等場所の変更をお願いさせていただく場合があります。

2 入院

面会について、家族2名（15歳以

上）まで1日15分以内でお願いしています。

来院の際は、外来診療と同様にマスク着用の上、来院ください。

体調に異常がある場合は面会を控えていただくことになります。発熱・せき・倦怠感などがある場合は、

来院前に電話にてご相談ください。

感染予防を徹底するため、ご理解とご協力をお願いいたします。

感染症流行の状況によって、対応が変わる場合がございます。最新情報については、ホームページ

でのご確認をよろしく願っています。



関係機関ニュース

研修情報

令和3年度高次脳機能障害研修のご案内

令和4年1月16日(日)に、オンラインにて開催します。

この研修会は、日本損害保険協会の助成を受け、高次脳機能障害に対する正しい理解と認識を深めるために実施しています。今回は、「脳損傷によって生じる社会的行動障害と支援について」をテーマに、京都光華女子大学医療福祉学科言語聴覚専攻教授 上田敬太氏にご講演をいただきます。

高次脳機能障害

害は外見からは症状が分かりづらいため、周囲から誤解を受けやすい面があります。この講演を聞いていただき、高次脳機能障害を一人でも多くの方に理解していただければと思います。参加料は無料です。



家族会情報

家族会のご案内

当センターにて、患者様のご家族主催の家族会が開催されています。日頃の思いや悩みを語り合うことで、少し気持ちが楽になるかもしれません。また、ご家族ならではのアドバイスもいただけますよ。

家族会「シェイキングハンス」

第1火曜 13時半〜

家族会「ケセラセラ」

第1金曜 11時〜



家族会情報

日本高次脳機能障害友の会全国大会

『第20回日本高次脳機能障害友の会全国大会in福島』は、令和2年10月12日、13日の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス対策により令和3年に延期となりました。

開催時期については、日本高次脳機能障害友の会のホームページをご確認ください。

勉強会

令和3年度高次脳機能障害家族セミナーのご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、高次脳機能障害者やそのご家族、高次脳機能障害に関心をお持ちの方を対象に学習会を開催しています。

場所…広島県立障害者リハビリテーションセンター2階 多目的室 (都合により変更する場合があります)

日時…第1金曜・第3火曜の14:15〜14:55

内容…月ごとに、①「脳損傷とその後遺症について」②「リハビリテーションと本人への関わり方について」③「福祉制度について」という内容を扱っています。①は7月・10月・1月に、②は8月・11月・2月に、③は9月・12月・3月に実施予定です。

*参加を希望される方は、参加申込書にご記入のうえ、高次脳機能センターにお申し込みください。当日参加も可能です。

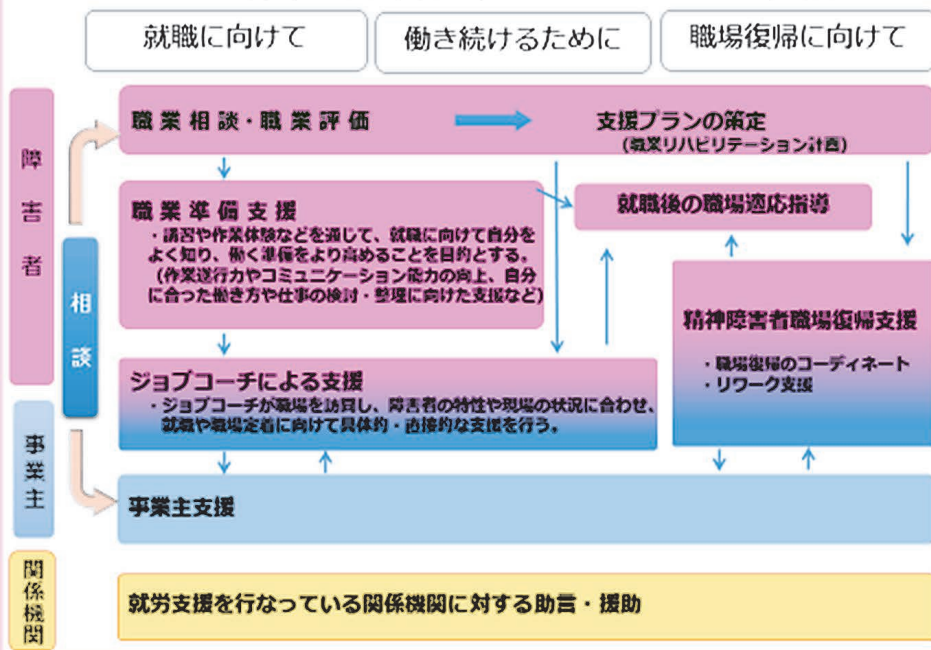
新型コロナウイルス感染症の流行状況により、中止になる場合があります。最新情報については、ホームページにて確認をお願いいたします。

施設紹介

広島障害者職業センター

広島障害者職業センターは、障害者の雇用の促進等に関する法律に基づき、独立行政法人高年齢・障害・求職者雇用支援機構によって全国47都道府県に設

広島障害者職業センターの業務



置・運営されている地域障害者職業センターです。県内のハローワーク等との密接な連携のもと、①障害者に対しては、就職に関する相談、職場に定着するための援助、就職や復職の準備のための支援を行い、②事業主に対しては、障害者の受け入れ、雇用管理、休職中の社員の職場復帰に向けての支援、施設改善に関する助言や援助を通して、障害者の雇用の促進と職業の安定を図ることを目的に業務を行っています。また、③障害者の就労支援を担う関係機関に対して、就労支援に関する研修や実習、協同支援等を通じた助言・援助や各種情報の提供を行っています。

「高次脳機能センター」など医療機関との連携

就職や復職の支援に当たっては、職業上のアセスメントを十分に行い、支援の内容や方法を検討し、より効果的な支援計画を立てることが大切です。また、支援計画に基づく具体的な支援の効果を高めるためには、障害に対する本人の理解や受容が大きく影響してきます。こうした点を考慮して、病気や怪我による脳損傷に起因する高次脳機能障害については、治療や検査、その後の医学リハビリテーション等、専門的な支援を行う医療機関から情報や助言を得ることが、職業リハビリテーションを実施する上で重要となります。当センターにおいても、引き続き、医療機関との連携を密に図ることで、より効果的な就職や復職に向け

た支援を行っていくことを考えています。

「高次脳機能障害者に対する支援事例」

在職中に交通事故による脳損傷により休職したAさん。復職するに当たり、障害がどの程度支障となるのか不明瞭であり対策が必要と考えられた医療機関から当センターへ相談がありました。

当センターでは、医療機関で把握された障害状況や障害特性に関する専門的な情報の提供を受け職業評価を実施。その結果、医療面のリハビリと並行し、障害を補完する代替手段の活用練習や作業耐性の向上を図るなどが復職に当たり必要と考えられたため、当センターの職業準備支援を活用し復職準備を進めました。また、復帰する職場との環境調整を並行して行いました。復職後は、ジョブコーチ支援を活用して職場適応のための支援を実施しています。各支援期間中、医療機関からは適宜、専門的見地からの助言・援助を得ており、復職後の安定した勤務に繋がっています。

【お問い合わせ】

独立行政法人
高年齢・障害・求職者雇用支援機構広島支部
広島障害者職業センター
〒732-0052 広島市東区光町2-15-55
電話 082-263-7080
FAX 082-263-7319
URL <http://www.jeed.or.jp>

8:45~17:00 土日祝、
年末年始除く

※ご利用に当たっては、事前に電話・FAX等によりご予約ください。



診療案内

□ 診察の流れ

予約制になっております。予めお電話でご予約の上ご来院ください。

〔診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、可能であれば紹介状・頭部CTやMRI等の画像をお持ちください。〕

① 電話予約

082-425-1455（代表）高次脳機能科受付 内線237

受付時間 月～金 9:00～12:00

13:00～15:00

相談のみでもお受けします。コーディネーターが対応します。

② 高次脳機能科・神経内科 外来診療

脳神経に関する専門医が診察します。

(R3.4.1～)

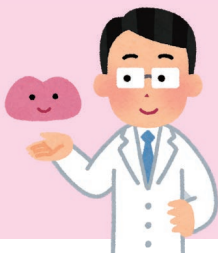
	月	火	水	木	金
9:00 ～ 12:00	近 藤 大 林	大 林	近 藤 大 林	近 藤 大 林	大 林 上 村
13:00 ～ 13:30	近 藤	(休診)	近 藤	近 藤	(休診)

③ 入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大の先行きへの不安が続いています。当センターでも手指消毒やリハビリ場所の調整など感染拡大予防に取り組んでいます。来院時の体調確認、マスク着用、手指消毒など引き続きご協力をよろしくお願い致します。



おこわり

原稿・写真については、ご本人の承諾を得て掲載しています。

新任医師紹介

大林 瞳 医師

患者さん、ご家族の力になれるよう努めてまいります。
どうぞよろしくお願い致します。